

福井県内科医会学術講演会

2022年5月7日(土)；福井県医師会館

特別講演「進行肝細胞癌治療に挑む～テセントリク+アバスチン併用療法の実力～」

講師 加藤 直也 先生 (千葉大学大学院医学研究院 消化器内科学 教授)

講師の加藤直也教授は、東京の有名進学校である開成中学・高校のエースで、昭和61年に千葉大学医学部をご卒業されました。卒業すぐに千葉大学第一内科にご入局され、世界的な肝臓学者として海外でも著名な奥田邦雄教授の薫陶を受けられました。またその頃のご教室には、小俣政男先生がいらっしゃいました。

加藤教授は、平成4年から国立がんセンター研究所ウイルス部にて研鑽を積み、我が国のC型肝炎ウイルス研究を創生期から牽引された下遠野邦忠部長のご指導を受けられました。その頃に、戦後初めて東大出身者以外で、東京大学の臨床教室の教授に着任された第二内科・小俣政男教授のお誘いにより、平成5年に東京大学第二内科にご異動なされました。小俣教授は、千葉大時代にB型肝炎ウイルス変異と劇症肝炎についてNEJMに筆頭著者として原著論文を発表した、大変な実力をお持ちの、仕事に厳格な先生です。加藤教授はその直属となられ、15年間にわたり消化器内科の講師等として、小俣教授の研究、診療、教育を献身的に支えられました。小俣教授が東大17年間で4,700点を超える論文インパクトファクターを達成なされた研究成果の根幹は、加藤教授の多大なご貢献によるものと推察いたしております。平成20年には東京大学医科学研究所准教授、その後に分野長も兼務され、肝癌感受性遺伝子MICAを発見されました。

そして平成29年4月に、横須賀収教授の後任として、母校の千葉大学大学院医学研究院・消化器内科学(旧第一内科)・教授にご就任でございます。この頃、東京大学消化器内科学教室は小池和彦教授(現、日本消化器病学会理事長)体制となっており、加藤教授のご就任祝賀会がとても盛大に執り行われて、とくに現状の新型コロナ禍においては東大でも語り草となっているようです。また加藤教授は、千葉大学医学部そして附属病院におきまして、副研究院長、副病院長をお務めのご多忙の日々を過ごされておられます。

加藤教授は現在の肝臓学の目標として、肝疾患のQOLを改善すると共に、肝臓死を限りなく減らすこと、とご指導をなさっておられます。そのために、アンメットニーズに挑む基礎および臨床研究を推進することを第一と考えられて、まさに我が国の肝臓学を先導する先生として多くの共感を得ておられます。さらについ最近、日本肝臓学会を代表して加藤教授が、肝がん白書のご執筆に携わられました。一度目にして頂ければ、診療や研究のエッセンスに溢れておりまして、先生方皆さまのお仕事が格段に充実したものになることは間違いございません。

本講演では、我が国における肝疾患の原因の多くはB型・C型肝炎などのウイルス感染症であることが以前より知られていますが、近年は非アルコール性脂肪肝炎(NASH)やアル

コール性を含む非 B 非 C 型が原因の肝疾患が増加傾向にあり、特に肝発癌が大きな問題となっていることを述べておられます。肝細胞癌による年間死亡者数は 3 万人を超えており、ウイルス性慢性肝炎のウイルス制御が可能となりつつある現在でも、肝細胞癌治療が極めて重要であるとお話されました。

2020 年 9 月、アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法が切除不能な肝細胞癌に対して本邦で承認されました。2021 年 10 月には、肝癌診療ガイドライン 2021 年版が刊行され、アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法は、切除不能進行肝細胞癌の First-Line 薬物療法として推奨されております。この度のご講演は、本併用療法における臨床成績や副作用マネジメントとともに、今後の進行肝癌治療戦略について加藤教授の大変に示唆に富むご見識を拝聴させていただく貴重なご機会となりました。

[座長 中本 安成 (福井大学学術研究院医学系部門 内科学(2)分野 教授)]